

【果樹】

縮間伐及び園地環境の改善

高品質果実の生産、低樹高化のためには、十分な樹間距離が必要になります。密植園では、樹高が高くなり作業性が低下し、また日陰になるため高品質果実の生産ができません。剪定に入る前に縮間伐をして十分な樹の間隔を確保しましょう。併せて、園地の防風林等の手入れもしましょう。

【温州みかん】

施肥 1月～2月

○苦土タンカル 200kg／10a 酸性土壤の是正が目的です。

* 葉色の悪い園(微量元素不足の可能性あり)では、マルチサポート 80kg／10a を使用

整枝剪定（大津・青島） 2月中旬以降(厳寒期を過ぎた頃)から始めましょう。

大津・青島は大果系です。剪定量が多いと大玉果となります。

中玉果の生産のために隔年で管理方法を変えましょう。

① 表年の樹

ハサミ剪定を主体で主枝の切り下げ、下垂した枝の切返し、密生した夏秋梢の整理、強い夏枝の発生部からの除去等をしましょう。剪定量を増やすと大玉果の原因になります。剪定量は1割以下を目安とします。

② 裏年の樹（昨年着果が多かった樹）

ノコギリ剪定を主体に樹形を整えましょう。樹形は3本主枝の開心自然形が基本になります。

剪定量が多いと、翌年大玉果が増えますので、剪定量は2割以下を目安とします。

③ 共通

・ミカンナガタムシの幼虫を減らすため被害部の切除、園外処分を行う（4月までに行いましょう）

○被害が重度な樹の場合：（主枝が2本以上枯れている樹等）被害樹を伐採し、園外処分する。

○被害が軽度な樹の場合：主枝単位で切除し、園外処分する。

・葉剤散布や収穫の作業性向上のため、樹冠内部への入り口を北側に作りましょう。

【湘南ゴールド】

収穫

12月以降3月にかけて糖度は上昇し、クエン酸濃度は低下する。外観にとらわれず、食味を確認してから収穫するが、凍害が心配される場合や地域では早めの収穫をすることもあります。

貯蔵

貯蔵は貯蔵箱やコンテナを使用してから行う。湿度保持のため数枚の新聞紙で覆う。

コンテナを使用する場合は七分目の入庫量とし4～5段積みにて不織布で覆う。

この時期の貯蔵庫は入庫量が少ないので湿度保持に努める。

【レモン】

施肥

1月～2月 ○苦土タンカル 200kg／10a 土壌酸度を適正に保つ。

【うめ】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

病害虫防除

1月

○灰星病（開花2部咲き期～満開期）ベルクート水和剤 収穫30日前 3回 2,000倍 50g／水100㍑

※ 灰星病の罹病枝が分からぬ方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。また、十郎を栽培している場合は、十郎の開花状況に合わせましょう。

※ 灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 硬核期まで 2,000倍 50g／水100㍑
(薬害軽減のためクレフノン200倍 500g／水100㍑を加用する)

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml／水100㍑ 又は
チエス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g／水100㍑

○灰色かび病・黒星病 ベルクートフロアブル 収穫30日前 3回 2,000倍 50g／水100㍑

※ 適期は落弁期(花びらの80%が散った時期)であるが品種により開花時期が異なるので状態に合わせて散布しましょう。

【かき】

病害虫防除

○ヒメコスカシバ 幼虫の生息場所をなくすため、粗皮削りを行いましょう。特に太い枝の分岐部は重点的に削りましょう。

※ 特に伊豆早生は被害を受けやすいため発生に注意しましょう。

※ 越冬病害虫、樹幹害虫は荒皮削り以外にも耕種的防除(落葉、枝などの園外廃棄)を行うと防除効果が高いです。

※ スカシバ類多発園では開花期までにフェニックスフロアブル(開花期まで200倍1回500ml/100㍑)主幹部及び主枝に散布する。粗皮を剥いで処理すると効果的です。

整枝剪定 2月末までには終了しましょう。

樹形は開心自然形が基本になります。主枝3本を理想とし、低樹高化に取り組みましょう。

柿は昨年発生した枝の先2～3芽から出た新梢に花をつけますので、枝の先端は切り返しをせずに切り戻し剪定を心掛け、主枝・亜主枝の近くに、30～50cm毎に充実した結果母枝を配置していきます。

【キウイフルーツ】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

病害虫防除 3月中旬(発芽前)

○かいよう病 ICボルドー66D 収穫後～発芽前 50倍 2,000g／水100㍑

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml／水100㍑

剪定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょう。

【水稲】

冬季耕うん 12月、1月に行っていない方は直ちに行いましょう。

冬季耕うんの主な目的は①～④となります。1～2回を目安に冬季耕うんをしましょう。

- ① 刈り株・ワラを分解します。*田植え直前(春)にすき込むと病害虫が発生しやすくなります。
- ② 病害虫の越冬場所になりやすい「ひこばえ」を除去します。(害虫を越冬させない)
- ③ 雑草の発生を抑えます。

草種により効果が異なりますが、多年生雑草の塊茎・種子を乾燥により減少させます。

*セリは春に耕うんすると、増えてしまいます。

- ④ 水稻除草剤の効果を安定させます。(田面が平らでないと効果が弱まります。)

スクミлинゴガイ(ジャンボタニシ)対策

ジャンボタニシ発生水田では、寒期にロータリー耕を行い貝を掘り起こし寒気にさらすとともに破碎します。作業速度を遅くしロータリーの回転数を高く浅めに耕うんすると効果が高まります。